

# 水稲栽培準備開始

## 良質米供給へ

～水稲種子播種作業開始～

田舎館基幹グリーンセンターは4月7日、水稲種子の播種作業を開始しました。同地区では、春作業が忙しい生産者にとって播種作業の人材確保などが難しいことから、約50年前からJAで播種作業を行い提供しています。

JA職員や作業員ら13人が床土供給機で播種や覆土作業などを行いました。今年は65件の申込みがあり、育苗箱でまっしぐら約1万8000枚、青天の霹靂約3000枚を播種する予定です。播種後は30度に設定した育苗器の中で約60時間加温し、数ミリ程度出芽した状態で生産者に荷渡しします。荷渡しは11日から始まり、作業は4月下旬まで行われます。

播種作業を担当する同JAグリーンセンターの職員は「JAが播種作業を提供することで生産者の負担を軽減することができる。良質な苗を提供できるよう管理を徹底して行う」と話しました。



播種作業を行う職員ら



生産者に提供された苗

## 環境に優しい米作り

～種子温湯消毒作業～

常盤基幹支店は3月19日から27日まで、水稲種子温湯消毒の受託作業を行いました。生産者206人がつがるロマンや青天の霹靂などの種子約29.7トンを申込み、1日あたり約4トンの消毒作業を行いました。

JA職員や作業員は、ネットに入れた種もみ（5kg）4袋ずつを60度の温湯に10分浸し、冷水に入れて消毒しました。常盤基幹グリーンセンターの佐々木篤篤農指導係長は「温湯消毒は、環境に優しいだけでなく芽揃いが大変良い。今年の種子は登熟期間の気温が高温で推移したため、休眠が深い可能性があり、温湯消毒により適切な催芽が確保できるだろう」と話しました。



水稲種子の温湯消毒を行う作業員

## 適正な管理方法を

～令和2年産水稲育苗講習会～

尾上基幹グリーンセンターは3月12日、尾上基幹支店で令和2年産水稲育苗講習会を開きました。育苗作業の手順や留意点、今年からJAカントリーエレベーターの荷受品種となった「まっしぐら」の品種特性などを確認することを目的としており、同地区の水稲生産者15人が出席しました。

同グリーンセンターの山口博之営農指導係長が管理方法について説明し「『まっしぐら』は、『つがるロマン』より種子の休眠が深いので、浸種と催芽の基本を守り種子がハト胸状態に達したことを確認してから播種を行う。苗がやや伸びやすいので、温度管理や水管理に留意し、健苗育成に努めてほしい」と呼びかけました。



水稲育苗について説明する山口係長（右）